

第10回理科教育賞 講評

【理科教育賞 大賞：楯と副賞100万円 1校】

●神奈川県 川崎市立下沼部小学校：

低・中・高学年に対して、児童の主体的な問題解決の姿の具現化をめざし、綿密な授業計画と実践、詳細な評価を行っている点を評価する。単元全体を見通すための単元構想図の作成や二単元研究など、ユニークな取り組みに挑戦しており、その成果が認められる。資質・能力、見方・考え方などに沿った授業づくりの好例として高く評価する。

【理科教育賞：楯と副賞50万円 3校】

●栃木県 栃木市立赤津小学校：

様々な単元にシンキングツールを活用している状況が、報告書から読み取れる。また、児童の記述から導入の効果を読み取ろうとしている姿勢も評価できる。どのようなシンキングツールをどのような場面で用い、またプログラミング的思考をどのように評価したのかなど、報告書にない具体的な実践内容をまとめ、他校の参考になるような資料としての公表を期待する。

●福岡県 福岡市立香椎東小学校：

対話して学ぶ場の工夫と児童の自己評価の活用という2つの手立てについて、興味深い実践が行われており、成果が出ていると判断する。それぞれの手立てについて、アンケートの数値によってその効果を検証している点も評価できる。今後、子どもの発言や記述をもとにしたより詳細な検証に期待したい。

●福島県 会津若松市立謹教小学校：

各学年の様々な単元に対して、ICT機器の特性をうまく生かした授業が実践されている様子が、報告書から読み取れる。今後の展開を明確にするため、および他校の参考となるように、ICT機器のいかなる機能を活用し、それによって何がもたらされると仮説を立て実践、検証が行われたのかといった、研究の中心部分についても、整理、公表されることを期待する。

【理科教育賞 ポスターセッション賞：楯と副賞20万円 1校】

●神奈川県 相模原市立淵野辺小学校：

6つのピースを手立てとした授業づくり、授業実践に関する報告である。参考資料における6つのピースの説明も具体的であり、投票者からも、「6つのピースに整理した手立てが明確」、「6つの視点がとても参考になった」、「本校でも実践していきたい」というような、取り組みを高く評価する意見が出されている。この取り組みの他単元、他教科への拡大適用に期待したい。